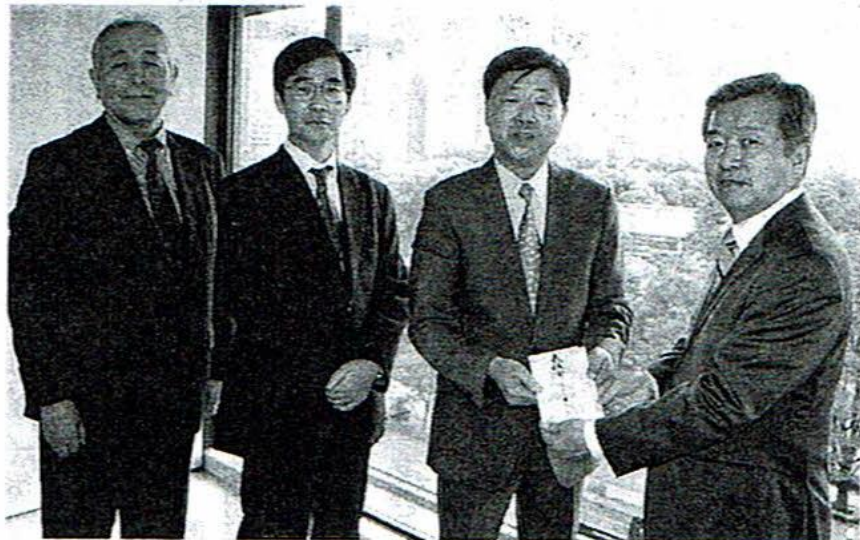


会員の活動報告（8月21日毎日新聞）

本年2月26日にトピックスに掲載いたしました毎日書道展「今をえがく書かながわ」などを開催している実行委員会が、西日本災害被災者への支援を行いました。

実行委員長は、茅ヶ崎中央RCでも活動をされている小川会員が務められています。職業奉仕の一つとしてご紹介させていただきます。



豪雨被害救援へ100万円

「書かながわ」展 実行委が寄託

横浜市で今春開かれた「今をえがく書かながわ」展（毎日新聞社、毎日書道会主催）の実行委員会幹部が20日、千代田区の毎日新聞本社を訪れ、西日本豪雨

の被災者と海外難民の救援のため、計100万円を丸山昌宏・毎日新聞社社長（毎日新聞東京社会事業団理事長）に寄託した。本社を訪れたのは、同展の小川對山実行委員長、生駒蘭高事務局長、相談役の船本芳雲・毎日書道会理事。寄託は毎春開催している「かながわ書道まつり」などでも行っており、小川実行委員長は「中越地震の被災者救援に始まり、10年以上が過ぎた。『書を通じた社会貢献』を今後も継続していきたい」と話した。

「今をえがく書かながわ」展は、毎日書道展の記念展がある年に各地で行う「毎日現代書巡回展」の一つとして5年に1回開催。毎日書道会の役員、神奈川県内在住の毎日書道展役員の作品を展示し、書家による席上揮毫やギャラリートークなどのイベントも行っている。今回は3月30日からの10日間、横浜そごう6階の「そごう美術館」で開かれ、1万182人が来場した。

【高橋昌紀】